

# 龍 源 寺 報

平 成 3 1 年 春 彼 岸 号

臨 濟 宗 ・ 妙 心 寺 派	
住 職 松 原 信 樹	
佛 母 寺 住 職 松 原 覺 樹	
正 福 寺 住 職 松 原 行 樹	
TEL	3 4 5 1 - 1 8 5 3
FAX	3 4 5 1 - 6 0 9 4

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## 春彼岸におもよう

今年も、梅の花が境内に綺麗に咲いた。いつもその頃、龍源寺では、泰道老漢の「梅花開五福」(梅花、五福を開く)の掛け軸を書院の床の間にかける。五福とは、人生の五つの幸福のこと。『書経』洪範には、

一は寿と曰す。二は富と曰す。三は康寧と曰す。四は好徳を攸むと曰す。五は考おいて命を終らうと曰す。

とある。つまり、五福とは、寿命の長いこと、財力の豊かなこと、無病なこと、徳を好むこと、天命をもって終わることであり、おそらく、梅の五弁の花を五福になぞらえたものであろう。考えてみると、これら五福は、日々の丹精によるものである。人間の一生の課題は、自分の生きがいに向けた精進と忍耐に尽きる。壁にぶちあたって、なかなか前へ進めない、自分の思うようにならず、挫折しそうな場面に直面しながらも、その果てしない格闘の上に成果として、人それぞれの素敵な花を咲かせる。

私達は、ご祖先さまから受け継がれた様々な功績を受け継いでいる。例えば、文化の形成、科学の発展、学術の振興、政治経済上の諸制度の合理化といった数多くの輝かしいものがあり、それらを楽しみながら、私達は、毎日を生かしていただ

いている。そして、今でも、そのような業績に携わる方々は、それらの中に己れを託し、日々研鑽をしている。研鑽という精進と忍耐の中で、天命をもって生涯を終える自分を私たちは、どこかで見いだし、このみえない生存への事実への気づきが、人間にとつての本当の自覚というものなのかもしれない。そう感じるとき、または、考えた時、ある人は、坐禅をし、ある人は自然に触れ、ある人は一人旅をし、ある人は趣味に没頭し、沈黙の中で己と対峙し、聴き、語り、それらを受け入れ、了解していく。こうした単純素朴な中に自分のふるさとを見いだしていくことが、現代という時代の中で求められているのかもしれない。

春彼岸会などの追善供養は、亡き人と向き合う機会になる。その法要をきっかけに、人間は天命をもつものとして、そこから、自分の生涯全体を真剣に思い、各自の可能性のまっ只中に自分を立たせ、真の自分を実存させることが、形式的な先祖供養に終わらない法事の目指すところではなからうか。ご先祖さまに恥じないように、梅花、五福を開くよう、日々精進していきたい。

梅の花は、春の訪れを教えてくれるもの。ご先祖さまと響き合うようなお参りができる春彼岸会でありますように、お祈り申し上げます。(信樹)

## 二 寄付

本堂改良工事エレベーター増設工事寄付

金十万円 梅洞寺殿

金十万円 土岐家殿

金一万円 釜人鉢の木殿

経蔵設立支援資金寄付

金五万円 森山英一殿

金一万円 釜人鉢の木殿

合同船寄付

金一万円 釜人鉢の木殿

日月庵寄付

金百万円 松原良樹殿

観音さまに

金三万円 飯沼定子殿

ありがとうございました

### 春彼岸会

左の通り行います。ご家族そろってお参りください。

一、三月二十一日（春分の日・午前十一時より）

一、読経

一、法話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。

龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして考え、先代から引き継ぎ、境内整備に力を注いで参りたいと思えます。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。（信樹）

# 龍源寺の定例会

## 禅の会（坐禅体験）

指導…松原信樹

定例日…毎月第一土曜日

（二月は別途）

時間…（二回）

午前十時から十二時、

午後一時三十分から

三時三十分

内容…坐禅とお話

会費…来会の時二百円

参加者の方は、サラリーマンの方・

女性の方・学生・会社の社長さん

様々です。大体五十人位。

## 仏像を彫る会

指導…三木童心

定例日…毎月第二土曜日、

第四土曜日

時間…午前十時三十分から

十二時三十分（初心者）

午後一時三十分から四時

会場…龍源寺花園会館

会費…二千元

## 写経会

日時…毎月第三土曜日

十四時から十六時

（八・十二月は除く）

受付…十三時五十分より花園

会館

写経会…十四時より『般若心経』の読経・法話があり、写経会が始まります

会費…二千元

携行品…小筆など書道用具一式

参加資格…どなたでもご参加いただけます

＊墨汁は使いません。墨を硯ですります。早く書写し終わりましたら、時間まで静かにお待ちください。

間に合わなかった方については、講師の先生に相談してください。

講師…飯沼定子先生

著作 心が楽になる「観音経」―

ペンで書く写経 松原哲明【著】

飯沼定子【書指導】／佼成出版社

（二〇〇七年五月発売）

柳 緑

花 紅

春彼岸会を迎えます。エレベーター増設工事、経蔵設立支援資金、合同船、日月庵坐禅堂に關しまして、ご寄付をいただき誠にありがとうございます。

とうございました。深く感謝を申し上げます。龍源寺は平成三十七年に創立三百五十年を迎えます。その事業の一環として、エレベーター増設工事、東北寺合同船、納骨堂の建設、借地を整備し、将来本堂を建て直す際、経蔵を建立し、寺院らしい景観を保たせていきたいと思ひます。寺院を地域の文化の資源の一つとして考え、境内整備に力を注いでいきたいと思ひます。今後とも、末永くご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。▼十月三日に埼玉県新座市野火止の平林寺で授戒会という儀式があり、御参加の方は、同封の申込用紙にご記入の上、お申し込みください。当日は、私がお話しをさせていただきます。▼エレベーターを使い本堂で法要をし、応接間で十名までのお齋（会食）をすることができまひます。安心してお参りできる環境を作

っていききたいと思ひます。フジテレビ「ノーストップ！」という番組から依頼を受け、毎週金曜日にタレントの方が街歩きをするコーナーの冒頭に龍源寺の境内の景色を使いたいということで、六秒という短い時間ですが、一ヶ月間境内が放映されます。造園屋さんや出入りの職人さん、毎日掃除をしてくださっている渡辺君に感謝です。『大般若経』は、二百巻から二百五十巻を写経し終わり、京都の貝葉書院に製本に出しました。現在三百巻に向けて精進しています。▼二月二十五日より一週間、S字結腸憩室炎を患ひ、入院しておりました。朝からお腹が痛く熱もあるのです、いつもお世話になっている近所の病院へ行くと、次第に検査が増えていき、ただ事では無いのではないかと思ひながら診察室に呼ばれ、「今日このまま入院なんですけど」と、着の身着のまま処置室で点滴となり、一週間入院しました。締め切りの原稿と講義が控えているのにどうしよう。病床で本を読んでもなかなか字面だけ追っついて頭の中に入っついていきません。そんな中、現実を

受け止め、治療に専念しました。おかげさまで、今後通院することなく、入院期間だけで病気を治癒し、体の隅々まで調べていただきました。お世話になりました。古川橋病院の医院長先生をはじめスタッフの方々に感謝です。引き続き、健康には気をつけていきたいと思ひます。▼妻の亜矢と娘の瑞樹は、義理の姉夫婦が住んでいるシアトルに、義理の両親と共に行っっておりまひました。娘は、二歳半ということもあり、少し見えていない間にたくさん言葉覚え、成長の早さに驚かされます。今年、四月から週二回、幼稚園のプレスクールに通うことになりました。きつとたくさんのお友達と出逢うことでしょう。祖母は今年一〇二歳を迎え茶道と編み物をしながら元気にしています。寺族一同元気にさせていただきます。▼三月二十日午後一時より、ちらし寿司の野菜の刻み作業を行います。ご都合のよろしい方、お手伝い宜しくお願ひ申し上げます。三月二十一日午前十一時より、春彼岸を厳修致します。ご家族皆さまでお参りください。（信樹）